

◆ Yokoso Obara Linkai

Take Free [0円]

おはらのじかん

— 第18号 —

2019 Winter

巻頭
特集

地域を元気に！

チャレンジ大平

自分たちで地域をつくる、楽しむ

[第1回 小原の空き家を見においでんツアー開催!!]

[小原の穴場名所 川見薬師寺の蝦虹梁]

[マンガ イカくんキンちゃんの小原日記]

[小原いろいろ情報]



小原人集まれ! 「おばちゅう卒」

おばちゅう
以外でもOK

www.facebook.com/obachuu



頭集 地域を元気に！ チャレンジ大平

小原の中でも、大平町は地域活動や空き家の発掘にとっても積極的な地区。その中でも元気なのが「チャレンジ大平」という会です。「寄つてカフェ」という居場所づくりに「森の夕べコンサート」など、いろいろなイベントを開催しています。

その中心人物、水野浩克さんと加藤章さんたちに会ができた経緯や想いを伺いました。

チャレンジ大平 地区の未来に危機感を感じ、現状の把握から始めた

水野浩克さんが52歳の時、小原地域会議※1をやっている頃に小原の現状を学び、大平町の将来に危機感を覚えたのがきっかけとなり結成されました。はじめは仲間といっしょに大平町全世帯にチラシを配り、「大平町を考える会」として1年間かけて5回程度ワークショップを行ったそうです。会の内容は、大平町の現状を住民のみんなに認識してもらい、みんなで将来の大平町に何が必要で何が大事なのかを考えること。出てきた意見を集約し、大平町独自のまちづくり指針をまとめていきました。その指針を実行する会として親しみやすいように名を改め「チャレンジ大平」としてスタートしたそうです。

実際の運営になると、当時は水野浩克さんが地域会議などで多忙だったため、同じ大平町の加藤章さんを中心とした同世代有志で、大平町に予算をお願いしたり、豊田市のわくわく事業※2などを活用しつつ、地域活動を続けていきました。会の有志の中には同世代の女性が数人いて「非常に助かっている。地域づくりにはやっぱり女性

のチカラは大切」とも話してくれました。

チャレンジ大平 活動は子供向けや高齢者向けなど多岐に渡る

チャレンジ大平の活動は多岐にわたります。2年前から毎月第3土曜日にみんなが集える場として始まったのが「寄つてカフェ」。100円でコーヒーやジュース、お茶が飲み、小さなお子さんが遊べる場もあります。

また、寄つてカフェと同時に開催なのが、地域の身近な植物や草木のことを知れたり見たりできる「花散歩」。自然観察指導員でもある永井さんご夫婦が中心となって行っており、人気を博しています。

その他の主だった行事は、大平町からお祝い金をいただき、小学校に入学する子どもたちをお祝いする「新入学児童を祝う会」。

子どもたちが土や自然の恵みを感じられるように考えた「サツマイモの苗植え付け体験」。

稲武のブルーベリー農園の方から指導していただき、耕作放棄地を利用して無農薬で手間暇かけて「から作り上げた」ブルーベリー狩りは、お値打ちで穴場としてとても人気があります。

そして、会の中で最も大きなイベントが、今年で7回目を迎えた「森の夕べコンサート」。森の夕べコンサートは、毎年10月8日に大平町の秋の大祭前に、まつりを盛り上げるイベントとして企画したのがきっかけで始まりました。昔の大祭は出店や縁日があったりで、とても盛り上がりがありました。そんな昔のように盛り上げたいという気持ちの後押ししているそうです。

水野さんはこうも話してくれました。「神社はどの集落にもあるけど、最近では社員が多くなったこともあり、ずっと先祖様たちが守ってきた神社と疎遠になっている」。そうしたことも神社でのコンサートをすることにした理由になっているそうです。「神社での思い出が、ゆくゆくは子どもたちの郷土愛にもつながると良いな」と思っているそうです。コンサートの前には収穫祭として、採れたての新米のおいしさが一番味わえる塩おにぎりと豚汁が食べられます。

その他の行事では、子どもたちの楽しめる「クリスマス会」。認知症予防のための「しかわ体操」や「ポッチャ※3」・「血圧測定と体組成計を使った健康維持と管理も、寄つてカフェと同時に開催しています。

チャレンジ大平 余裕ができたから、少しの時間を地域のために

チャレンジ大平の運営の中心メンバーは50〜60代からで、子育ても一段落して落ち着いてきた世代が中心で行っています。「もっと若い子は参加しないんですか？」と聞くと、若い子は子育てや消防団など、とても忙しいので、たまには手伝ってもらおうが負担にならないように、と考えているそうです。「そのうち将来時間と余裕ができてきたら、僕らと同じように、楽しみながら、自分たちの地域づくりをしてほしい」と話してくれました。

続けて「今後の地域維持は、行政頼りではもう立ち行かない。自分たちのことは自分たちで、と考えを変えていかないといけないと思う」と危機感も語ってくれました。そして「小原の他の地区もその地区にとって将来何が大事でそのためには何をすべきかをみんなで考えてやつていかないといけない時期にきていると思う」とも。

「それに子供の数が増えるとやっぱり地域は元気がでる」。会としても地区に年1組の子供のいる世帯を増やすことを目標に、子供の数が一定になるような活動もしています。定年された地域の方も月に1日でも良いので、自分の時間を少しだけ地域に還元しても



らせるような雰囲気づくりを心がけているそうで、水野さんは「まずはやってみることが大事でないかな」と自らの体験も含め語ってくれました。小原の中でも、早くから地域ぐるみで動きだしている「チャレンジ大平」の取り組みは、是非他の地区でも参考にしてもらいたい事例で今後の動きも注目して行きたいと思います。

※1 地域会議は、地域課題やまちづくりについて話し合い、市の事業に反映させるための審議機関。
 ※2 わくわく事業は、地域資源を活用し、地域課題の解決や地域活性化に取り組み団体を支援する新しい発想の支援制度。
 ※3 ポッチャは、ヨーロッパで考案された障がりの有無に関わらず誰もが楽しめるスポーツで、パラリンピックの正式種目。

大平在住で小原宴火の代表でもある澤田真之介さんから見た「チャレンジ大平」

「チャレンジ大平」と聞いて、最初に思い浮かぶのは、黄色いTシャツの元気な笑顔だ。大平の行事では毎回と言っていいほど美味しいご飯やおやつを振る舞ってくれている。とにかく笑顔でパワフルな方ばかりで、元気を貰える。会社勤めをしていると、地域の方と接する機会は少ないが、チャレンジ大平のおかげで、子供を連れて地域の人々と遊べたり、ブルーベリー狩りが出来たり、珈琲を飲みながら地域の話ができたりと地域と関わる機会をたくさん作って貰えている。特に、秋の大祭のプレイベント『森の夕べコンサート』では毎年様々な音楽に触れることができ、地域の元気の中心になってくれていると思う。2021年には大平の白山神社の600年祭。チャレンジ大平と共に最高の『おばらのじかん』を過ごしていきたい。





のかお邪魔させてもらいました。

かわいい看板と野菜

大平児童館前の駐車場に止め、すぐみつけたのはおしゃれなカフェの看板です。手書きのようですが、可愛く描かれていて、気分がも



りがあります！児童館の階段を上がると扉が開かれており、入口では野菜の販売がされていました。机にキレイに並べられた野菜はどれも瑞々しく、とても美味しそうです。カフェに来てお買い物もできるなんて嬉しいことです。

キッズコーナーと健康コーナー

カフェに入るとスタッフの男性と女性が笑顔で迎えてくれました。カフェには、いつも2〜5名のスタッフさんがボランティアでいらっしやるそう、やれる人がやれる時に入

るそうです。

カフェの室内は広く、小さな子供の遊び場や健康コーナーがあり、健康コーナーにはスタッフさんがいて、血圧や体組成計を使うことができます。健康コーナーは月替わりで、ポッチャや健康体操などいろいろな健康に関することをやっているのだそうです。血圧などのデータはファイルすることができ、健康管理に役立ちそうですね。



地域のアルバムを見ながらおしゃべり。

カフェはテーブルに座布団でお茶をするスタイルです。くつろぎすぎと思わず横になってしまおうそうです。

スタッフさんにコーヒーを頼むと、コーヒーマシンを使ってコーヒーを入れてくれます。作っている間もスタッフさんとの楽しい会話が続きま

一緒にしてもらった女性たちは「寄ってカフェにおしゃべりに来るの」「家におつてばかりじゃね。家におつてばかりにしてでいかないとね」と笑って話をしてくれました。

それぞれのテーブルには数冊づつアルバムが置かれ、誰でも見ることが出来ます。アルバムを作るのは大平に住む内田さんで、大平の専属カメラマンだと教えてもらいました。アルバムを広げるとそこには、大平の行事ごとにまとめられた、たくさんの写真が入れられていました。アルバムを見ながらお茶を飲めば、いっそう会話が花が咲くそうです。



寄ってカフェは大平の皆さんにとって、大事な憩いの場となっているそうです。

地域のみんなお互いを知り合うきっかけ

チャレンジ大平のメンバーであるKさんは、「みんな元気で楽しい大平にしましょう！と思つてやっているんですよ。例えば、持つ子供の年代が違えばお互いに知らなかったり、わからない。知り合うきっかけもないし、話すことができなかったら、困つても話を聞くことも手を貸すこともできない。カフェでた

くさんの人と知り合うことができれば、お互い何かしら助け合うこともできますよね。いつも来る人が来なければ「今日はあの人来ないよね？大丈夫かしら？」って心配もします」と教えてくれました。

「カフェをやつていてどうですか？」と質問すると、「いっぱい来てくれると嬉しいし、楽しいです。できればもっとたくさんの方に来てほしいです」と満面の笑みで答えてくれました。

M.U

チャレンジ大平ブルーベリー農園
様々な活動をしている、チャレンジ大平。4人のメンバーで始まり、今では約25人ほどの活動だそう。実がなつて、毎週土曜日だけの開放では採りきれないほどのブルーベリーが実る「チャレンジ大平ブルーベリー農園」におじゃましてきました。



「おはようございます！」と元気な声が迎えてくれました。おはようございます！「食べ放題とお土産ひとパックで300円ですよ！」と元気に迎えてくれました。

大きなパックに食べ放題がついて300円！

お金を払うと引換券をもらえます。そして、ブルーベリー畑へ！畑の前に張られたタイプには別のおじさんたちが3人。「たくさん取つていってね！」「ここにお茶があるので、しっかり水分補給してよ」とブルーベリーを入れるパックを渡してくれます。このパック、とても大きい！これで食べ放題も付いて300円はかなりお値打ちです。助六が入つて売られているパックくらいあります！（分かつてもらえるかな？笑）



パックを持っていよいよ畑の中へ。しっかりと網で囲まれて、鳥や獣が入らないようになっています。ブルーベリーの木の下には防草シートが張つてあり、雑草が生えていないため、とても採りやすくなっています。ブルーベリーはしっかりと完熟していて、とても甘くて美味しいです。食べたりパックに入れたり忙しくしていますが、なかなかパックがいっぱいになりません。ようやくパックいっぱい採つて、お茶をこちそうになり、児童館へ戻ります。

無農薬で手間暇かけた5種類のブルーベリー

この大平ブルーベリー農園の「顔」である加藤章さんにお話を伺いました。今では150〜170本、5種類以上のブルーベリーの木があるこの農園も、もともとは約10年前にわくわく事業で、50本のブルーベリーの苗木を植えたことから始まったそうです。ブルーベリーに適した酸性の土を作るためにピートモスと糞を鋤きこんでありますが、軽トラで20杯分ほどの糞を運んだそう！

ブルーベリーを地域資源として生かそうと、大平町の子供は無料、大人は100円からスタート。そして昨年からは大平町以外からのお客さんも採れるように。カメシヤやミムシの害にも農薬を使わずに手で虫を取っているそうです。

数々の努力もすべて、地域の活性化や来てくれる人に楽しんでもらうためだと話してくださいました。この日も小原内外からたくさんの方がブルーベリー狩りに訪れ賑わっていました。

美味しいブルーベリーがお値打ちに採れるチャレンジ大平ブルーベリー農園、来年もぜひ行きたいと思つています。

A.H



第1回 小原の空き家を 見においでんツアー開催!!



まだ、四季桜の咲く2019年12月1日に、小原地区定住促進委員会が主催となつて、空き家の見学ツアーが開催されました。応募者はなんと10組18人でした！関心の高さが伺えました。

まずは、古民家など豊田市の空き家情報バンクに登録予定の物件を見学。その後、先輩移住者がおしゃれにリノベーションした古民家や、セルフビルドしたお宅などを見学。質問も飛び交いました。

その後は食の交流会のほか、先輩移住者や地域住民との情報交換会が開催されました。

過疎が進む山間部の課題解決の鍵は、移住できる空き家の発掘になります。小原でもっと物件がでると良いですね。

T.S

大平のレキシは...
室町時代に...
ナンタラカンタラ...

コトシカク
講釈は...
ワッポン
にや〜ん

ワサカリカン
WIIEN
バリバリ

ワサカリのあとは
お楽しみ
B・B・Q
カンパニー
うみや

小原の穴場名所
希少な樫一本の透き彫りの蝦虹梁
川見薬師寺

秋には山全体に四季桜が咲くことで有名な、川見四季桜の里。そのすぐ隣にある川見薬師寺には、全国でもちよとめずらしい蝦虹梁（えびこりりょう）があります。蝦虹梁とは海老のように湾曲した形の梁（はり）で、参拝者が拝礼するための屋根の柱と本殿の柱をつなぐ梁です。本場の京都のお寺でもあまり見掛けることのないほどの樫一本の透き彫りです。細部までに手間ひまかけた透き彫りで、昇り龍と降り龍の対となっており、見ごたえがあります。また、本堂の中に安置されている薬師如来像は豊田市の指定文化財にもなっています。

「とよたまちさとミライ塾
プログラム」級建築士事務所
風とカレ 吉谷さん案内」
に参加し取材掲載

愛知県豊田市川見町225

おばら地区の物件を探すなら!

豊田市 空き家バンク

www.city.toyota.aichi.jp/akiya/

小原の情報ページ

『おばちゆう卒』是非登録してね!

www.facebook.com/obachuu

小原のいろいろ情報
カンザカシキ
1月17日(金)

和紙作りの工程のひとつで、和紙の原料となる楮の木の皮を蒸して剥ぎ取る作業。(誰でも参加可能)

小原地区子ども和紙作品展
1月15日・12月11日

小原地区小・中・こども園の作品展です。

※今年和紙のふるさと展示館が工事中のため、小原交流館のロビーに展示されます。

和紙のふるさと
豊田市水太郎町洞216-1
0565(65)2151

蚕雲神社の祭礼
元旦祭(1月1日)
節分(豆まき)(2月3日)
蚕をお祀りしている神社。
蚕雲神社
豊田市日面町下ノ田534-1
0565(65)2683

STAFF
小原白宇感 編集後記

「おばらのじかん」の取材に行かせていただくたびに、いろいろな発見、気づきがあります。まだ小原に越してきて8年。これからもどんどん小原の素晴らしいところを見つけて、ご紹介していきたいと思えます。

A.H(今号編集長)

今回、大平の取材をする中で大平の皆さんからたくさんのお話を聞くことができ、本当によかったです。今できることを考え、行動すること。自分たちの住む地域を守り、未来を描きそこに向かっていくこと。とても刺激を受けました。

M.U

今回、僕の地元、大平の特集に関われたことで、当たり前だと思っていたことがとても魅力的なことに気づいたり、新しい素敵なことを発見出来たり、素敵な『おばらのじかん』を過ごせました。感謝です。

S.S

チャレンジ大平の名前は以前からよく聞いていましたが、どういった経緯でできたのか、その想いを聞いたことで、自分の地域でもできることを考えさせられました。また楽しみながらやられていることがとても印象的でした。

T.S